

当院における臨床研究(学会発表)への診療情報等の提供について(オプトアウト)

さたけこども発達クリニック(および NPO 法人ふくおか子どものこころサポート研究所)では、医療・支援の発展および診療の質向上を目的として、診療記録や研修データ等を用いた臨床研究(学会発表)を行っております。これらの研究は、患者様等に新たな検査や費用等のご負担を強いるものではありません。また、データ解析の際には個人を特定できる情報をすべて削除し、匿名化を行った上で実施いたします。

当院では、国が定めた倫理指針(「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」)に基づき、対象となる方から同意をいただく代わりに、研究の目的や内容を公表し、参加を拒否できる機会を保障する「オプトアウト」という手続きを用いて情報公開を行っております。各研究へのデータの利用を希望されない場合は、いつでも拒否できます。その場合でも、今後の診療やご利用において不利益を被ることは一切ございません。

【対象となる研究一覧】

研究課題①：発達性協調運動症児における認知や遂行能力の客観的指標と観察者評価との関連 - WISC-V 知能検査、JPAN 感覚処理・行為機能検査と行動特性の分析 -

研究責任者：佐竹 宏之、渡邊 慈香

研究の目的：発達性協調運動症(DCD)のある児童の行動特性の背景にある認知や遂行能力の特徴を、各検査指標の相関から多面的に分析し、適切な評価と環境調整に役立てる。

対象となる方：当院を受診され、JPAN、WISC-V、AQ、ADHD-RS 等の評価を実施された患者様

対象期間：2022 年 4 月 ~ 2026 年 5 月

利用するデータ：診療記録(年齢、併存症)、各種心理・発達・感覚検査のスコア

研究課題②：児童精神科外来を受診する限局性学習症の児童の臨床的特徴① - 初診時の主訴の分析 -

研究責任者：佐竹 宏之、小川 結実

研究の目的：限局性学習症(LD)と診断されたケースの初診時の主訴を後方視的に分析し、学習困難以外の多様な主訴の背景に潜在する LD の特性や、併存症による日常生活への影響を検討する。

対象となる方：当院を受診され、STRAW-R 等の検査により限局性学習症(LD)と診断された患者様

対象期間：2022 年 4 月 ~ 2026 年 5 月

利用するデータ：初診時間診療の記載内容(主訴)、診療記録(年齢、診断名、不登校傾向の有無等)、STRAW-R 等の検査結果

研究課題③：児童精神科外来を受診する限局性学習症の児童の臨床的特徴② - 診断後の支援状況の分析 -

研究責任者：佐竹 宏之、結城ルミ子

研究の目的：限局性学習症(LD)と診断されたケースの診断後の支援状況や保護者の子ども理解の変化をアンケート調査により分析し、評価・診断の臨床的意義や支援の課題を検討する。

対象となる方：当院を受診され、STRAW-R 等の検査により限局性学習症(LD)と診断された患者様

対象期間：2022 年 4 月 ~ 2026 年 5 月

利用するデータ：保護者向けアンケートの回答データ(特別支援教育利用状況、読み書きの課題やテストでの配慮内容、評価後の理解や関係性の変化等)、STRAW-R 等の検査結果

研究課題④：母子生活支援施設職員への CARE ワークショップが子どもの行動問題に与える影響 - SESBI-R を用いた前後比較研究 -

研究責任者：佐竹 宏之、山下 雅子

研究の目的：母子生活支援施設職員を対象とした CARE(支援者向けワークショップ)の受講前後における子どもの行動問題の変化を分析し、支援者の関わり方や子どもの行動への有効性を検証する。

対象となる方：当院および NPO ふくおか子どものこころサポート研究所が実施した「支援者向け CARE ワークショップ」を受講された施設職員の皆様、および評価対象となった児童

対象期間：2025 年 1 月 ~ 2025 年 2 月

利用するデータ：ワークショップ前後に実施した SESBI-R のスコア、児童の基本属性(年齢、性別)

【研究へのデータ利用を拒否される場合・お問い合わせ窓口】

ご自身(またはお子様)のデータのこれらの研究への利用をご希望されない場合は、お手数ですが、発表準備およびデータ処理の都合上、2026 年 8 月 31 日までに下記のお問い合わせ窓口までお申し出ください。当該データを研究対象から除外いたします。上記期日を過ぎた場合、あるいは研究成果が学会等で公表された後のお申し出につきましては、データの性質上、発表内容からの完全な削除が困難な場合がございますが、その際も可能な範囲での対応を検討いたしますのでご連絡ください。

連絡先：さたけこども発達クリニック 092-915-2250 担当者：佐竹 宏之